

第31期第6回小田原市図書館協議会会議録

- 1 日 時 平成28年3月29日(火) 午後2時00分～午後4時52分
- 2 場 所 小田原市立かもめ図書館 集会室(2階)
- 3 出席者 宮崎委員長、野口副委員長、大塚委員、松本委員、田先委員、村上委員
諸星文化部長、杉崎文化部副部長、古矢図書館長、三樹副館長、
北村副館長、穂谷野管理係長、小野サービス係長、星崎主査
- 4 傍聴者 0人
- 5 内 容
 - (1) あいさつ
諸星部長からあいさつ
 - (2) 報告事項
(委員長) 議事を進める前に事務局に尋ねるが、本日の議題の中で、非公開にする案件はあるか。

(館長) 次第の「3 協議事項の (2) 駅前図書施設の機能検討状況について」は、市議会をはじめ、教育委員会定例会等に提出していない、「イメージパース」などの資料を取り扱うので、この部分のみ非公開にしたい。

(委員長) ただいま、事務局から、本日の会議においては、「3 協議事項の (2) 駅前図書施設の機能検討状況について」を除いては、非公開案件はない旨発言があったが、各委員、何か御意見などあるか。

(各委員から、意見は無く全員賛成)

(委員長) 全員賛成により、「3 協議事項の (2) 駅前図書施設の機能検討状況について」は、後ほど非公開での審議とさせていただく。本日、傍聴希望者はいるか。

(星崎主査) ただいまのところ傍聴希望者はいないが、希望者が来られた場合は、5名まで順次入室いただくので、御了解いただきたい。

(委員長) 了解した。それでは、議事を進める。
「2 報告事項の (1) 平成27年度図書館関連議会報告について」から「(3) 平成28年度図書館行事の予定について」までを議題とする。この

議題については、事務局から資料発送時に、協議事項により多くの時間を割り当てるために、説明を割愛する旨連絡をいただいている。資料については、各委員、すでにお目とおしと思うが、質問などあったら、御発言をお願いしたい。

(各委員から、質問なし)

(3) 協議事項

1) 子ども読書活動推進計画について

「資料4」にもとづき、北村副館長から説明を行った。

(館長) 本市では、子ども読書活動推進計画を制定し、5年が経過したため、今年度、現状把握のアンケートを実施した。図書館としても、子ども読書活動を推進するために、明らかな目標を持ち、改定をしたいと考えている。

資料のとおりスケジュールを考えているが、本日は、ラフな形でご意見を伺いたい。特に、市民向けのワークショップを考えているが、どういう形が良いかお考えをいただきたい。

子ども読書活動推進は、駅前図書施設とも密接に係わっている。子どもの読書を取り巻く環境についても、ご意見をいただきたい。

(委員長) 本日は、各委員から感想を述べていただきたい。アンケートの回収率は、どのくらいであったのか。

(館長) ほぼ100%である。

(委員長) 5年間のデータの推移が出ているが、児童数、図書館利用者数も減ってきている。こうした傾向の中で、根本的な課題を見出したい。各委員の感想をお聞かせいただきたい。

(松本委員) 質問であるが、図書担当の教諭とは、司書教諭のことか。

(館長) 司書教諭ではなく、図書を担当している教諭のことである。

(松本委員) 学校司書は、どのようになっているのか。

(館長) 業務委託で、週に2日くらい学校に配置されているもようである。

(副委員長) アンケートの記述、回答の中で、学校司書のかかわりが出てこないが、学校司書が配置されるようになっての効果は、どうであるのか。

(館長) アンケート結果から、読書好きの小学生が多くなったことが分かった。各学校の司書については、前期の図書館協議会で、教育指導課の指導主事にヒアリングをしていただいたが、各学校間で差があることが分かった。

また、学校図書ボランティアと良好な関係にある学校もあれば、まだ手についでいないところもあるようであり、学校司書配置の効果が出ている学校と、そうでない学校があると考えられる。

(委員長) 学校司書に対しては、アンケート調査をしていないのか。

(館長) していない。

(田先委員) どうして学校間で差があるのか、調査しているのか。

(館長) 読書好きの子が多いか少ないかというところもあると考えている。正式な分析はしていないが、学校間での取り組みの違いがあるようである。

(田先委員) 成功事例を活用できないものか。

(館長) 良好な結果であったところについて、今後、聞き取り調査を実施したいと考えている。

(大塚委員) 学校図書館に、委託の学校司書が配置され、確実にいい環境となった。司書やボランティアの活動で違いはあるだろうが、学校と学校司書とボランティア、担当の先生が、共通認識を持ってチームとしてやろうという動きが大事ではないか。

図書館協議会で協力できること、学校図書館へ公共図書館からの配架などのアドバイスといったアプローチ、学校図書館では買えない書籍や図鑑などの貸し出しを行っていくと良いのではないか。

(委員長) 学校図書館と公共図書館のつながり、図書館ボランティアの広がりについて、この5年で大きな発展があった。

(館長) 小中学校では、効果がみられるが、幼稚園ではあまり効果がみられない。幼稚園の先生方は読書活動に一生懸命であり、子どもたちも幼稚園では楽しく読書をしているようであるが、アンケートは幼稚園児の保護者を対象としており、読書量減少の結果が出ている。子ども読書活動推進計画の改定については、この点をフォローしたいと考えている。

(副委員長) 学校間の差については、学校司書のスキルの差もあると考えられるが、学校司書への研修会はあるのか。

(館長) 副委員長にも出席していただいたが、図書担当の先生を対象に年1回開催している研修会はある。

(村上委員) 10年間、新玉小学校で図書ボランティアをしているが、司書教諭が担任を持っていないときは、常に図書室にいてくれたので良いのだが、担任を持つと、授業で手一杯となってしまう。高学年の児童が貸し出しなどを担っていたこともあるが、それも難しくなっている。

学校司書が週2回配置されるようになり、とても良いことと思うが、学校司書と図書ボランティアの連携があまりにもとれていない。学校司書のおかげで、学校図書館がきれいになったこともあり、いかに学校司書を上手に活用できるか、担任の先生にかかっているのではないか。

(副委員長) 全教員を対象に、図書館をどう活用するか研修することを、次の子ども読書活動推進計画に盛り込んだらいかがか。

学校図書館をどう活用するか、教員免許を取得するときは、ほとんど学ばない。こういう研修は、先生方へのサポートにもなる。

(村上委員) 若い母親は、読み聞かせの本の選定方法もよく分からないようである。園児の保護者を対象にした読み聞かせのレクチャー、ワークショップなど良いのではないか。

(大塚委員) 読み聞かせのハードルが高いと思っているのではないか。普通に本を読む延長線と分かってほしい。

(委員長) 関係者だけでなく、いろいろな人が参加できるような、ワークショップがあるとよい。

(松本委員) 子ども読書活動推進計画は、公共図書館が中心となって策定するが、学校の読書環境が良くなないと、なかなか子どもの読書活動もよくできない。公共図書館だけの計画では、実行性がないので、学校に対して、一緒に推進していくということを盛り込む必要があるのではないか。

(館長) 前期の図書館協議会では、学校図書館との連携をテーマとしていた。これを契機に、少しずつ学校側と連絡を取るようになり、今回のアンケートも実施できた。来年度から始める、調べる学習コンクールについては、学校図書館との連携を深める結果になると、期待している。

今後も、学校、幼稚園、保育所、家庭、地域などにどのようにアプローチしていくかが、大きな課題であると考えている。

(委員長) 各方面とのコラボはぜひお願いしたい。先生や担当者は、苦勞していることがうかがえるが、スキルアップの講習会などを公共図書館がリードすることを、よろしくお願いしたい。

(松本委員) 学校図書館の支援制度はあるのか。

(館長) 本市にはない。公共図書館が積極的にやるべきであると考えており、いろいろなバックアップができると思う。

(委員長) 前期の図書館協議会では、公共図書館の具体的なサポートはなく、申し出があったときに、サポートするという実態であった。保護者や熱心な先生がいろいろ連携し、学校司書の導入もあり、雰囲気の良い学校は増えた。ぜひ、具体化するところで、現場の声をキャッチしてもらいたい。

学校司書は、なかなかつながりが持てず、雇い主に何か言うことはできるが、行政側には言うことはできないようである。こういう、現場の状況を知ることが大事である。

(副委員長) 今年の7月に実施予定の、ワークショップは、どういう形をイメージしているのか。

(館長) 計画を策定するにあたり、できるだけ市民の意見を聴取したいと考えている。子どもが本を読むようにするためには、どうすればよいか小人数のグループで話し合い、計画に反映するとか、トークイベントの形をとり、図書館ボランティアや関心のある不特定多数の人から意見を聴取することを考えている。

(松本委員) 機運を高めるために、読書フェスティバルや各施設での読み聞かせ、ビブリオバトルの開催などはいかがか。

(館長) 新しい試みとして、この3月に朗読フェスティバルを開催した。駅前図書施設の理解を深めることにもつながると考えている。

(委員長) 図書館協議会委員に声をかけていただければ、アイデアが出るかもしれない。保護者の関心を持てるようなものを、図書館からの働きかけをお願いしたい。

(三樹副館長) 調べる学習コンクール全国コンクールのチラシと文部科学大臣賞の複製作品をお持ちした。来年度から、本市では、地区コンクールを開催する。子ども読書活動の推進や学校図書館との連携にもかかわってくると考えている。

参加作品が増え、夏休みの定番の宿題に入れば、まずは良いのではな

いかと考えている。これからも、図書館協議会で議論をして、ご意見をいただきたいと思う。

本コンクールは、都道府県としては30前後、市町村としては、60から70団体、県内では座間市が実施している。平成28年度は第20回の記念大会である。

(委員長) 科学コンクールを重複するところはないのか。

(館長) 図書館を使った調べるコンクールなので、最後に図書館名や資料名が出てくるところに違いがあると思う。

(大塚委員) 公共図書館と学校図書館の司書同士が、相談できる関係性があると良い。

(館長) 夏休み時期なので、公共図書館に来る子どもたちは多いと思う。

(三樹副館長) 回を重ねるうちに、うまく機能していくことと思う。

2) 駅前図書施設の機能検討状況について (非公開)

(4) その他

(委員長) その他について、事務局何かあるか。

(星崎主査) 次回の開催については、改めて日程調整させていただきたい。また、図書館関連の各種行事のチラシなどを配付させていただいたので、ぜひご覧いただきたい。けやき図書室が、耐震工事の関係で、4月1日(金)から6月6日(月)まで、休室となるのでお知らせする。

(委員長) 次回は、いつ頃の開催を検討しているのか。

(星崎主査) 5月ごろを想定している。

(委員長) 了解した。それでは、本日は、ここまでとする。

終了